

関東学院大学 並木 俊 宮村 忠

## 1、はじめに

現在の首都圏においては、「お盆」と言う歳時記は失われつつある。しかし長野県の千曲川流域ではその「お盆」に加えて、寛保2年(1742)の「戌の満水」と言われる大洪水の供養を行い続けている。

本研究では、この「戌の満水」による被害を調査し、墓参行事との相関を考察したものである。

## 2、千曲川の概況

千曲川は長野・山梨・埼玉の3県にまたがる甲武信ヶ岳(標高2475m)に源を発し、急峻な山々の山裾を流れ、佐久・上田・長野盆地と言った僅かな平地を潤している。長野市牛島付近で檜ヶ岳(標高3180m)を源とする「犀川」と合流し、新潟県に入ると「信濃川」と名称を変える。その流路延長214kmは信濃川全体の58.3%にあたり流域面積7163.3km<sup>2</sup>は59.4%にあたる。(図1参照)

千曲川は2000m級の山々に囲まれている為、その河川勾配が川上村において4.1%と大きくなっている。加えて各支川の河川勾配も同様に大きく、流路延長は短く、河況係数が大きくなっている。(表2参照)

## 3、「戌の満水」の被害

寛保2年戌年(1742)の大洪水「戌の満水」は、近畿以東に甚大な被害をもたらした。徳川實紀によると「浅間山崩れ、松代・小諸・忍・河越・古河・関宿の城みな大破しぬ。」とあり、東京市史稿によると「利根川上流の大水に至り、両国橋・新大橋・永代橋破損し」と記

図1 千曲川の位置

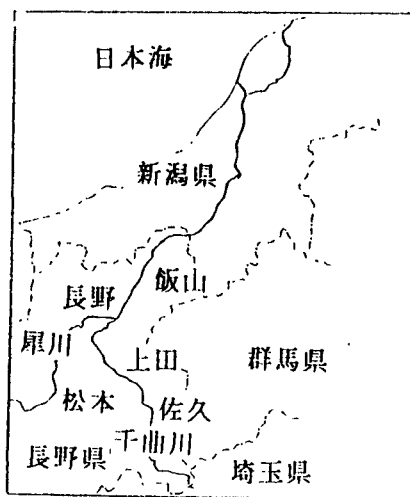


表2 千曲川の河況係数

|         |       |
|---------|-------|
| 上流(川上村) | 109.7 |
| 中流(更埴市) | 127.2 |
| 下流(中野市) | 31.7  |

(S34~43)

されている。表3、4に各藩の被害状況を示す。表3 人的被害

千曲川の洪水は特に著しく、上田市史によると「通常の10倍の水位が町を襲い、人的・物的に壊滅的な被害」を受けた。

4、墓参行事の範囲

千曲川流域においては、被害の甚大さを物語る様に流死人等の供養碑が残っている。加えて7月31日の墓掃除と8月1日の墓参が行われている。墓参に関しては名称が3つに分かれる。上流部では「墓参り」、中流部では仏様がお盆を前に石の戸を開けて来ると言う意味の「イシノト」、下流部では「うら盆」と呼ばれている。今回調査を行い墓参の範囲を示した結果（図5参照）、お盆等広範囲にわたる行事とは異なり被害の大きかった千曲川流域に点在している事が示された。

5、結論

本調査を行い「戌の満水」と墓参行事は密な関係にある事が立証できた。しかしこの墓参行事が現在までも続けられている原因は、単なる供養や地域性だけではなく、情報社会ではなかった当時後世に伝える手段として行われてきたのではないだろうか。特にこの「戌の満水」は江戸時代において最大ものと言われており、近代においてもその被害の大きさを十分に被りうるものと考えても良いだろう。とすればこの先人の伝承してきたものを受け継ぎ、その理解と対応が治水にとっては、より重要な事と指摘できる。

| 県名 | 藩名 | 流死者数 |
|----|----|------|
| 長野 | 飯山 | 13   |
| "  | 松代 | 1220 |
| "  | 上田 | 158  |
| "  | 小諸 | 586  |
| 群馬 | 小幡 | 18   |
| 埼玉 | 河越 | 24   |

表4 物的被害

| 藩名 | 損耗石高  | 損耗率  |
|----|-------|------|
| 飯山 | 1636  | 8.2  |
| 松代 | 61624 | 61.6 |
| 上田 | 27000 | 50.9 |
| 小諸 | 1753  | 11.7 |
| 長岡 | 43000 | 58.1 |

図5 墓参行事の範囲

